

令和4年度 学習分析事業 改善計画 三原市立深小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		全体
国語	前年度結果 偏差値平均	50.8
	本年度結果 偏差値平均	47.2
算数	前年度結果 偏差値平均	49.2
	本年度結果 偏差値平均	48
理科	前年度結果 偏差値平均	52.6
	本年度結果 偏差値平均	49.4
全体	前年度結果 偏差値平均	50.8
	本年度結果 偏差値平均	47.7

2. 調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて)	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)
<p>●国語科では、「情報を選び、構成を考えて話す・書く」で3学年(第4学年:26.6%, 第5学年:33.5%, 第6学年:26.6%)、「話の内容の大体をとらえる」で第2学年(33.3%)に課題があった。また、「話や意見の背景を考え話し合う」で第4学年(26.8%)のように、全学年で、自分の意見や感想を伝え合ったり、話し合ったりすることに課題があった。</p> <p>●算数科では、分数で2学年(4・6年)(40.7%)、「時刻の読み方、時刻と時間」で2学年(2・4年)(46.2%)に課題があった。</p> <p>●理科では、「乾電池と豆電球」で第4学年(20%)、「乾電池の働き」で第5学年(52.3%)、「物の溶け方と水溶液の重さ」で第6学年(48%)に課題があった。</p> <p>●3学年(2・4・6年)で、無回答率が高く、問題文を読んで理解することに時間がかかたり、集中が続かなかったりする児童が多いため、読解力や集中力に課題がある。</p>	<p>●国語科では、「書くこと」の領域で、「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること」(0%)に課題があり、話し合いて他者の意見をもとに、自分の意見を考え書くことに課題がある。</p> <p>●算数科では、「数と計算」の領域で、「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察すること(概数)」(0%)、「変化と関係」の領域で、「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めること(割合)」(25%)に課題がある。</p> <p>●理科では、「エネルギー」の領域で、「実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述すること」(25%)に課題があり、どちらも、問題を分析、解釈して、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題がある。</p>

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

②全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数	理科
前年度結果 (対県比)	66 (0)	72 (+2)	
本年度結果 (対県比)	66 (-1)	63 (-1)	74 (+8)

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全学級において、すべての児童が問いを持ち、主体的に課題解決に取り組めるような授業改善をする。</p> <p>○全学級の児童が、自分の考えと根拠を明確にした表現ができるようになる。</p> <p>○全教諭が、個のつまずきを把握し、個に応じた指導・支援の方法を考え、個のつまずきに応じた指導・支援を行えるようにする。</p>	<p>①NRTの調査分析による実態把握と改善計画の立案、改善計画の共有</p> <p>②学校経営会議や校内研修等で取組の進捗状況を共有し、改善策を考える。</p> <p>③単元ごとに課題設定や導入の問題提示の工夫を考え、実施し、単元構想シートを基に授業研究や、管理職による授業参観を実施する。(①解決の必要感②生活との結びつき③目標に沿った課題とまとめの整合性)</p> <p>④「表現を高めるカギ言葉」を活用し、自分の考えと根拠を明確にして表現させたり、友達の見えをふまえた自分の考えを表現させたりする場を設定する。さらに、算数科を中心に、応応題と振り返りのヒントをともに振り返りを確実実施し、理解度を評価する。</p> <p>⑤偏差値45未満の児童に「学習意欲・学力向上を目指す個別の支援計画」を作成し、具体的な支援方法を考え、実施する。</p> <p>⑥家庭学習や国語等の学習で、教科書の音読を行うとともに、「読み上げシート」を活用し、授業開始時、家庭学習等で読み上げ1分間チャレンジを実施する。</p> <p>⑦ドリルタイムで、課題のあった内容について、アシストシートやプリントで復習し、内容を解説するなど、学び直しを行う。</p> <p>⑧学力調査問題の類似問題やアシストシートを、ドリルタイムに実施するとともに、2、3学期末に類似問題の校内テストを実施する。</p>	<p>①6月</p> <p>②6月・12月・2月</p> <p>③学期に1回以上</p> <p>④ノート交流を月2回実施 (12月、3月は月に1回)</p> <p>⑤7月に作成、9月から実施</p> <p>⑥毎日</p> <p>⑦7月～9月</p> <p>⑧10月～4月</p>	<p>・Q-U2回目の学習意欲の数値向上(全学級で1回目以上)</p> <p>・各単元末テスト平均(全学級85%)</p> <p>・学習アンケート 児童アンケート及び教職員アンケート(肯定的評価85%以上)</p> <p>・読み上げシートでの初回の記録からの伸び率(90%以上)</p> <p>・2、3学期末に実施する類似問題の校内テスト正答率(80%以上)</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○全学級において、個の実態を把握し、全教諭で確認共有し、指導改善に生かせるようにする。</p> <p>○全学級の児童が、学校生活を通して、達成感や自己有用感を味わえるようにする。</p>	<p>①Q-Uの分析による実態把握と改善計画の立案</p> <p>②改善計画の共有</p> <p>③暮会等で、気になる児童の共有</p> <p>④学校経営会議、校内特別支援委員会等で児童の実態を把握し、適切な支援の方法を考え、取組を行う。</p> <p>⑤スクールカウンセラーや生徒指導担当と連携して内容を選定したソーシャルスキルトレーニング(SST)の実施</p> <p>⑥係活動や委員会活動、縦割り班活動を計画的に実施し、振り返りを月1回以上行って、評価する。</p> <p>⑦Q-U2回目の分析による実態把握と課題の共有を行い、学級の課題に応じた面談、学級づくりの取組、SSTを実施する。</p>	<p>①6月</p> <p>②6月</p> <p>③週1回暮会時</p> <p>④月1回以上</p> <p>⑤月1回(第3金曜日)</p> <p>⑥月1回以上</p> <p>⑦1月～4月</p>	<p>・Q-U2回目の一次支援の数値向上(全学級で1回目以上)</p>